

あま市教育委員会

教育長 松 永 裕 和 様

甚目寺東小学校・正則小学校地区委員会

委員長 近 藤 哲 夫



甚目寺東小学校・正則小学校地区委員会の意見書

甚目寺東小学校・正則小学校地区委員会は、甚目寺東小学校・正則小学校の適正規模化を検討するために、平成28年11月に設置されました。これまでに、7回の委員会を経て、次のとおり地区委員会としての意見を取りまとめましたので、提出いたします。

1 検討事項

森地区の一部児童を正則小学校へ学区変更することについて

2 地区委員会としての意見

地区を分けて学区変更することは地区の理解を得ることができず、現段階での実現は難しいと考える。

3 検討事項に対する考え方

未来を担う子ども達「あまっ子」をとりまく教育・学校運営等の面における適正な学習環境の構築を目的とし、甚目寺東小学校・正則小学校の適正規模化を検討した。地区委員会では、両校の現状と課題、及び適正規模化に向けた学区変更の課題等について会議を重ねるとともに、保護者へのアンケートや該当地区への報告会を開くなど意見を集約してきた。その中で、主な意見として、児童にとって安全安心な教育環境（通学距離・時間、安心して生活できる学級数など）が望ましいことは理解できるが、課題として現段階での学区変更の必要性、通学距離・時間、通学路等の施設整備、学区変更による児童への影響、地域コミュニティのつながり、などが挙げられ、検討された。

また、森地区1丁目から8丁目の保護者及び正則小学校の保護者を対象にしたアンケート結果では、森地区1丁目から8丁目の保護者については、賛成が約2割、反対が約7割、特に考えはない等約1割であった。アンケートでの主だった反対理由としては、「環境の変化による児童への影響が心配。通学距離・時間が長くても児童は慣れるし楽しそうであり大人が思うほど大変ではない。地区の分断はありえない。」などの意見が寄せられている。また、該当地区での現状報告会においても同様な発言がなされ、地区委員会で挙げられた意見を裏付けている。正則小学校の保護者については、概ね理解を得ることができた。ただ、森地区の児童への影響等に配慮すべきという意見が多かった。

地区委員会としては、これまでの地区委員会、アンケート結果、現状報告会の状況等を踏まえ、両校の適正規模化に向けた学区変更について、教育委員会の趣旨は理解できるが、なお、環境の変化による児童への影響、地域コミュニティのつながりの稀薄化などに対する不安が根強く、地区の理解を得ることは困難であり、現段階での実現は難しいと考える。

4 今後に向けての課題

今後も両地区の情報交換の場を通じて理解を深め適正規模に向けた機運の醸成を行う。そのために学校公開日等の情報を提供し学校を知っていただく。時間をかけて理解を深めることによって、地域住民の意識の変革の到来時が適正規模化の最良の時期と思われる。